

氏名	能 祖 美 樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3130号
学位授与の日付	平成9年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	未熟児網膜症治療例の長期視力予後に影響を与える因子
論文審査委員	教授 清野 佳紀 教授 増田 游 教授 工藤 尚文

学位論文内容の要旨

当科において加療し、長期経過観察できた未熟児網膜症治療例 28 例 52 眼に対し、その視力予後に影響を及ぼす因子について統計学的に検討した。視力予後は視力 0.6 以上の良好群と 0.2 以下の不良群に大きく分かれ、視力不良の原因としては、網膜剥離 2 例 2 眼、黄斑変性 5 例 6 眼、不明 1 例 1 眼であった。視力不良の原因として多くみられた黄斑変性を生じた症例では生じなかった症例と比較して、出生時体重が小さく、網膜症は厚生省新分類の II 型もしくは中間型が多く、治療範囲が広く、なかでも全周に冷凍凝固が施行されており、さらに、血管アーケード内に及ぶ加療が行われている場合が有意に多かった。黄斑変性には、黄斑部近傍に生じた小変性巣が黄斑をとりまくように輪状に拡大し黄斑全体に及ぶものと、耳側網膜の凝固部の変性が黄斑に向かって拡大し黄斑変性に至るものの 2 型がみられた。未熟児網膜症瘢痕期に発生する黄斑変性の中には、疾患の後遺症として発生したもの他に、治療の合併症として生じたものも含まれている可能性がある。

論文審査結果の要旨

長期経過観察できた未熟児網膜症治療例 28 例 52 眼に対し、その視力予後に影響を及ぼす因子について統計学的に検討した。視力予後は視力 0.6 以上の良好群と 0.2 以下の不良群に大きく分かれ、視力不良の原因としては、網膜剥離 2 例 2 眼、黄斑変性 5 例 6 眼、不明 1 例 1 眼であった。視力不良の原因として多くみられた黄斑変性を生じた症例では生じなかった症例と比較して、出生時体重が小さく、網膜症は厚生省新分類の II 型もしくは中間型が多く、治療範囲が広く、なかでも全周に冷凍凝固が施行されており、さらに、血管アーケード内に及ぶ加療が行われている場合が有意に多かった。未熟児網膜症瘢痕期に発生する黄斑変性の中には、疾患の後遺症として発生したもの他に、治療の合併症として生じたものも含まれている可能性がある。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。